
巡回バス

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

巡回バス

【Nコード】

N08320

【作者名】

境康隆

【あらすじ】

巡回バスを運転する男。男は時計のように正確だった――

彼は自分の職業に誇りを持っていた。

入社以来ずっとハンドルを任されている、巡回バスの仕事だ。

いつも同じ時間に発車し、寸分の狂いもなく各停留所に停車していく。

もちろん時刻表通りに発車する。そしてバス停を巡回していく。

時計回りの男。

正確に巡回し、且つこれまた正確に停発車する彼は、いつしかそう呼ばれるようになっていた。

多少のアクシデントに見舞われようと、彼はその遅れを瞬く間に修正していく。

暮盤の目のように通りで区切られたこの街を、彼は毎日寸分違わず巡回していく。

それはやはり時計の針を見るかのようだ。

實際街の幾人かは、巡回バスが通る時間に合わせて生活のリズムを刻んでいた。

朝の巡回バスが通った。学校に出かける時間だ。

昼の巡回バスが通った。買い物に出かける時間だ。

夕の巡回バスが通った。夕食の支度をする時間だ。

もちろんバスを利用する人間なら尚更だ。このバスに乗ってれば、遅刻しない。このバスにさえ乗れば、家族との約束の時間に家に帰れる。

時計の針に乗るがごとく、人々はバスの巡回にその身を任せて暮らしていた。

運転手はそれを誇りに、何十年と同じ巡回バスを運転した。

「そんな職業運転手が、何故事故を？」

事故の処理にあたった警察官が、その部下に振り返って訊いた。

「それが運転手の定年退職を記念して、家族でドライブに出かけたそうです」

「出かけたって言っても、家の車庫出たところだな。それで」

「運転手は不測の事態を避ける為に、家では事故を恐れて車は乗らなかったそうです」

「勘が戻らなかったってか？ それでも大小が逆だろう？ バスが久しぶりなともかく……」

警察官は軽くへこんだ左のバンパーに目を落とす。事故と言っても、物損のみ。死人はおるか、怪我人もなし。

だが名物運転手の事故は、近所の野次馬を一息に集めていた。

「車の大小の違いは、私には分かりません。ですが……」

「ん？」

「ですが、いつもとは逆にハンドルを切ったら、失敗した。それは何となく分かります」

「はあ？」

「時計回りのバスは右折しかしませんからね。何十年振りかの左折で、慌てたんじゃないですか」

警察官とその部下が振り返ると、運転手は気恥ずかしげに視線をそらした。

それは癖がついているのか、実に自然と右を向いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0832o/>

巡回バス

2010年11月9日05時31分発行